

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価」



小中一貫校大池学園
大阪市立大池中学校

令和7年4月

大阪市立大池中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 3 年度、生野区西部地域学校再編整備計画により、第 1 次再編として、校区の中川小学校と御幸森小学校が統廃合され、大池小学校が誕生した。そして令和 4 年度には第 2 次再編として、大池小学校に舎利寺小学校の一部の児童が加わり、大阪市初の連携型小中一貫教育を推進する『小中一貫校大池学園』として統合された。

組織編成から始まり、合同研修会や研究授業、授業参観などの教職員の交流、および児童生徒の交流など、大池小学校との連携を深め教育目標達成に努めている。また、ユネスコスクールの認定を目指し、教育内容の精選や取組の意義を整理し、実践しているところである。

学力面において、前年度中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において前年と比較すると 3 年生の国語は +4.6 ポイント、数学は -5.7 ポイントとなり、2 年生の国語では -1.0 ポイント、数学は +4.0 ポイントと学年ごとに教科に差が生じた。指導方法の工夫を踏まえ個に応じた指導を推進していく。

学校評価アンケートの話し合い活動についての肯定的回答は、87.3 ポイントと前年度を上回る値となり改善がみられた。また、学校の年度目標に関して、「学校の授業の予習や復習をしている」の肯定的回答の割合は生徒 49.5%・保護者 46.2% と向上がみられる。さらに、英検を受検することで学習意欲が高まった割合も 66.9%（昨年度 60.0%）と、昨年度を上回った。

全国体力運動能力調査による体力総合点で、男子 42.3 (R5:36.3・R4:43.1)、女子は 46.5 (R5:48.6・R4:40.7) と、男子の向上が特に大きい。体力・運動能力においては、部活動との関連も深く、生徒の基本的生活習慣の安定化に大きく影響している。部活動参加生徒に対するプレイヤーズファーストについて教員の意識も高まり、今後の部活動の在り方や目的を円滑に考えながら体力・運動能力の維持・向上に努めていきたい。

安心して成長できる安全な学校の実現に向け、「いじめはいつ起こってもおかしくない」を前提に全教職員による早期発見に努めるとともに、生起した事案についてはいじめ対策委員会にて検討を行い早期解決が図れるよう複数の教員で組織的に取り組んでいる。

生徒への学校規則の遵守や規範意識向上にも取り組み、生徒アンケートによる「命の大切さや社会のルールを守っている」の肯定的な回答の割合は高く、自尊感情や生命を大切にする心の醸成がみられる。

教職員の働き方について、平日の勤務時間の超過は大きく減少したが、部活動指導時間は、公式試合や、総合文化祭やコンクールなどの大きな発表会のための練習に土日休日の一定時間が費やされており、職務への意欲との均衡が課題になっている。

ICT 機器の活用が進み、教材作成や情報周知等での負担軽減は図られている。

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における【国語】の問題において、「書く」の領域の正答率を令和4年度と比較して5ポイント向上させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における【数学】の問題において、「数と式」の領域の正答率を令和4年度と比較して5ポイント向上させる。
令和7年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の予習をしていますか」「家で学校の復習をしていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合をそれぞれ55%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目において「全くしない」と答える生徒の割合を、10%以下にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度までに、授業日において学習者端末を毎日使用した割合(学校行事等でICT活用に適しない日を除く)を100%にする。

【その他】

- 令和7年度までに、小中一貫校大池学園として、小学校と連携してユネスコスクール認定を目指す。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

施策目標を達成するための年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。

学校園の年度目標

- 校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 校内調査において、生徒向けアンケート「自分には、良いところがありますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- 人格形成の基礎を培うため、感性や創造力、自己を表現する力を育む情操教育を推進し、文化・芸術に触れ、素晴らしさを体験させる行事を実施する。また、合唱コンクールを行うなど、音楽を通じて子どもたちの表現力や情操を豊かにする。
- 連携型小中一貫校として、円滑な接続を実現するために、生徒と児童の交流を行い、系統的な実践を推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

施策目標を達成するための年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 48.4%）
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を前年度以上にする。（前年度 32.7%）
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 56.3%）

学校園の年度目標

- 英語教育について、英検（実用英語技能検定）実施に向け、個々の昇級目標を明確にすることでの動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。
- 連携型小中一貫校としてのカリキュラム作成を進めるとともに、ユネスコ会議の開催や教職員研修を踏まえ、ユネスコスクール認定に向けた学びの一貫性を目指す。

【学びを支える教育環境の充実】

施策目標を達成するための年度目標（中学校）

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。

学校園の年度目標

- 授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を100%にする。

【その他】

学校園の年度目標

- 小中一貫校大池学園として、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、ユネスコスクールの認定への取り組み状況を前年度よりも進める。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大池中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。 ○ 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 ○ 校内調査において、生徒向けアンケート「自分には、良いところがありますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。 ○ 人格形成の基礎を培うため、感性や創造力、自己を表現する力を育む情操教育を推進し、文化・芸術に触れ、素晴らしい体験を実施する。また、合唱コンクールを行うなど、音楽を通じて子どもたちの表現力や情操を豊かにする。 ○ 連携型小中一貫校として、円滑な接続を実現するために、生徒と児童の交流を行い、系統的な実践を推進する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>『いじめを考える日』の全校集会において、いじめについての校長講話をを行い、それをふまえて、各学年・各クラスでいじめについて考える取り組みを実施する。常に学校全体でいじめの未然防止・早期解決について取り組む。</p> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を 95%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>インターネット上でのいじめの防止に向け、SNSのかかわりやネット依存に関する保護者・生徒向けのSNS啓発講演会を実施し、学校・家庭と連携していじめについて考える機会を持つ。</p> <p>指標</p> <p>校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する割合を 90%以上にする。</p>	

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

『人権教育年間計画』・『道徳年間学習計画』に則り、さらなる多文化共生教育の充実を推進し、互いに違いを認め合い、尊重し支え合う集団作りに努める。

指標

校内調査において、生徒向けアンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」の項目で肯定的に回答する割合を90%以上にする。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

連携型小中一貫校として、円滑な接続により安心して登校できる環境を作るため小学校との交流を促進する。

指標

小中学校の児童生徒交流を年間6回実施し、9年間を見通した教育実践を実施する。

取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】

心豊かな生徒を育むため文化芸術と触れ合う体験的な取り組みを実施し、芸術の素晴らしさを感じとり豊かな情操を培う。

指標

校内調査において、生徒向けアンケート「合唱コンクールや展示発表をすることで表現力がついたり、感動したりすることができましたか。」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

年度目標	進捗状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 48.4%） ○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度以上にする。（前年度 32.7%） ○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 56.3%） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育について、英検（実用英語技能検定）実施に向け、個々の昇級目標を明確にすることでの動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。 ○ 連携型小中一貫校としてのカリキュラム作成を進めるとともに、ユネスコ会議の開催や教職員研修を踏まえ、ユネスコスクール認定に向けた学びの一貫性を目指す。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑥【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業研究や校内研修において『1. I C T活用』・『2. アクティブラーニング』・『3. めあて・まとめの提示』を行うこと定め、全教員が研究授業を行い、授業改善に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>校内調査における生徒向けアンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目で、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>連携型小中一貫校として、9年間を見越した教育課程を検討し、学びの一貫性を目指す。</p>	
<p>指標</p> <p>単元配列表を小中学校それぞれ作成し、相互授業参観や研究授業に参加したり、小学校で必要な箇所の出前授業を実施したりする。</p>	

取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

校内第5回実力テストに代わる共通到達度確認問題テストを実施し、個別の学力到達度を図り個別の課題を詳細に把握することにより学力全体の底上げを図る。

指標

中学3年生の自己実現に向けた意欲を高め、生徒向けアンケート「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。

取組内容⑨【基本的な方向5 健やかな体の育成】

体力・運動能力が高まるよう、体育の授業や校外行事等の学校行事を精選し、安全への配慮を踏まえた指導内容に工夫をし、体力合計点を向上させる。

指標

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点における課題を克服するため、男女とも、前年度合計点（男子42.3点、女子46.5点）より増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

年度目標	進捗状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を100%にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑩【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 自学自習の習慣の確立を図るため、校内の学習環境整備やすきま学習の啓発に努め、オールタイムで個々の状況に対応できる自習室の活用の推進を行う。</p> <hr/> <p>指標 校内調査において、生徒向けアンケート「自習室で自分のペースで自学自習している」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度43.2%）</p>	
<p>取組内容⑪【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学び協働的な学びの実現に向け、学習者端末を積極的に使用する取組を行う。</p> <hr/> <p>指標 授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を100%にする。</p>	
<p>取組内容⑫【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校における働き方改革推進プラン」に基づく各取組の効果検証。</p> <hr/> <p>指標 ゆとりの日を設定し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を前年度以上にする。（前年度68.9%）</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

年度目標	進捗状況
【その他】 学校園の年度目標 ○ 小中一貫校大池学園として、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、ユネスコスクールの認定への取り組み状況を前年度よりも進める。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容⑬【基本的な方向2 豊かな心の育成】 小中一貫校大池学園として、ユネスコスクールの申請に向けて、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、教育課程を整備する。	
指標 毎月1回ユネスコ会議を開催し、認定に向けて、ユネスコ憲章を意識した教育内容を整備する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	